あすなろ通信　49号

編集　ＮＰＯ法人みよし子育て・学び支援あすなろ
事務局　〒728-0006　　三次市畠敷町 36 番地 7
（TEL　0824-55-6301　FAX　0824-55-6302）
HP　http://asunaro-juku.sakura.ne.jp
発行日　2023 年1月23日

今月のことば

汝の立つ処を深く掘れ、
必ずやそこに泉あり。

ニーチェ
（ドイツの思想家）

理事長あいさつ

理事長　松本信司

明けましておめでとうございます。

今年の正月は昨年降った大雪により、雪の中での正月となりました。皆さん二〇二三年、決意も新たに新しい年を迎えられたことと思います。

「ＮＰＯ法人三次子育て・学び支援あすなろ」をご支援いただく企業・団体・個人の皆様には心より感謝申し上げ、本年も変わらぬご支援のほど、よろしくお願いします。

さて、昨年は円安や燃料価格の高騰による物価高など暗いニュースが多くありました。

海外に目を向けてもウクライナ情勢は未だ収束の兆しが見えず，北朝鮮のミサイル発射もかつてない頻度となり、「平和」や「安全」ということについて考えさせられる年でした。今年こそは明るい年となるよう願うばかりです。

設立理念を踏襲

あすなろ塾は、黒田先生（元理事長）の呼びかけにより退職教職員の皆さんによって二〇一一年三月に設立され、今年の三月で一二年が終わろうとしています。

この間、あすなろ塾もいろいろな出来事がありましたが、「経済格差を学力格差にしてはならない」という開塾の精神は一ミリも揺らぐことなく、指導者の皆さんに引き継がれ現在に至っております。

あすなろ塾が開塾した当初は、現在の塾舎ではなく、その都度三次市の施設の利用申し込みをし、生徒も指導者も荷物を抱えて移動というヤドカリ生活をしていました。そういう現状を見かねた黒田先生が自費を投じて塾舎を購入され現在にいたっています。（もちろん相応な家賃は払っていますが。）

当初は、指導者の皆さんも退職教員の方がほとんどで、ボランティアの皆さんの力を借りて運営されていましたが、現在の塾舎に移転してからは職員の常勤、非常勤態勢を確立するとともに、学習塾としての機能を強化（学力向上体制の強化）し、部（中学部、小学部、元気教室等）の再編を行ってきました。

しかし、あすなろ塾の運営にあたっては、常に以下の課題がありました。

一つは「学力保障態勢の強化」、一つは「運営資金の確保」、一つは「活動拠点の確保」です。塾舎の確保についても、将来展望がなかなか持てない不安定な状況が続いていました。契約内容のことでガタガタしたこともありました。

塾舎移転のお知らせ

前述した「塾舎の確保については来年度から一定程度前進することができました。現在の契約を終了し、新たな場所（住所：三次市畠敷町一四九七番一）に塾舎を確保することになりました。

長い間あすなろ塾に関わって頂いた方々のおかげで今日があります。本当にありがとうございました。近くに来られることがありましたら、是非お立ち寄りください。

一、二年生の作文から

新しい年を迎えるに当たり、一、二年生が前年を振り返って新しい年の抱負や決意を作文しました。一歩ずつ前進しようとする決意、成長している姿を読み取っていただけると幸いです。

高校受験に勝つまでは

二年　A

私の二年間の中学校生活を終えて振り返ると、今年の一年は私にとって、心の気持ちの波がとても乱れやすい一年でした。高校受験が少しずつ近づくたびに胸がひどく痛みました。受験への不安が強くなるたびに心が苦しくなります。そのたびに先生や友達と話をすることで不安が少しやわらぎました。

今年は、今まで以上に、受験に向けて本気で取り組むことを正月の日に決意しました。そのために、勉強で自信をつけることを目標に努力します。勉強に自信があることは、それなりに勉強の内容を理解できていることになり、次の段階へ進むエネルギーになるからです。高校受験に向けて中学校生活で大切にしていきたいことは、テスト勉強をしっかりして成績を下げることなく、上げることだけ

を目標として、努力することです。
　他人との付き合いは苦手ではなく、コミュニケーションをとるのが得意で、話が合う人なら積極的に話しかける時もあるくらいです。人と話すことは知り合いなら普通にできるのですが、初対面の人と話すときは、相手の態度と表情をよく観察して、その人に合わせて話をすることができます。
　私は将来は大工になりたいと思っています。自分の才能を活かした仕事をしていくことが今の目標であり将来の夢でもあります。
　受験のことを考えると心が乱れることがあると思いますが、自分の将来の夢を実現するためにも、先生や友達の助けを借りながら、それを乗り越えていきたいと思います。

高校受験に向けて

二年　B

　高校入試まで約一年となりました。僕は高校受験に向けて次のことを頑張りたいと思います。
　一つ目は、受験勉強を頑張りたいです。そのために、学校での中間テストや期末テストなどのテスト勉強に早めに取りかかったり、中学校での二年間で見つけた自分に合った勉強方法を活用するなど行動に移していきたいです。
　二つ目は、自分について理解することです。自分を理解するということは、今年から変わった入試制度の自己表現で試される大切な力です。だから、自分を理解するという力を伸ばしていきたいと思います。
　私は将来についてあまりはっきりしていないので、高校に行ったら将来したいことを見つけたり、見つけられなくても、将来の選択の幅を広げていけるように頑張りたいと思います。中学校生活も残り約一年あるので将来の自分についてもっと考えていきたいです。

三年生になったら

二年　C

　私は、三年生になったら高校の受験と部活動の両方を頑張りたいと思います。
　まず、高校受験では家での勉強時間を増やしていってそれを中間、期末テストなどに活かせるようにしたいです。なぜならば、一年生の時はあまり勉強をしていなかったからテストでも良い点が取れなかったりしていましたが、二年生の二学期に塾に入ってから、勉強を頑張って少しだけ好きになった感じがして前向きになることができたからです。
　次に、部活動ではバレーボール部に所属していますが、バレーボールを一年生のとき初めてやったときはボールを高くあげたりすることができませんでした。入部してから基礎を練習して、二年生になってセッターになることができて嬉しかったです。しかし、セッターをやってみたけれど、アタックが打ちやすい位置にボールを上げることが難しかったです。そして、今まで頑張ってきたことを活かして三年生になったらチームの皆とコミュニケーションを取って頑張りたいと思いました。
　これから、三年生になっても、何事にも全力で取り組んでいきたいと思います。

今年の意気込み

二年　D

　今年から色々なことを考えさせられるようになりました。四月から三年生として下級生に頼られる存在になれるか、高校受験は大丈夫だろうか、勉強についていけるかなど、家にいるときや一人のときに考えます。一日が終わると、安心感と同時に不安も感じます。将来就きたい職業に就けるかと不安になることもあり、とにかく考えることが多いです。前向きな考えを持たないといけないのですが、後ろ向きな考えしか思い浮かびません。しかし、友達と話しているときはとても楽しくてそんな考えはしません。人といると不安よりも安心感が強くなり、前向きになれます。
　しかし、三年生になるということで、成長しなければならず、後ろ向きな考えばかりしていられません。少しずつ不安なことを減らしていくために、小さな目標を立てていき、それを達成することで不安を減らしていけるようにしたいです。
　初詣では、一年中健康でいられるように祈りました。僕はよく大切なときに体調を崩します。だから健康を保ち、どんなときでも後悔のないようにしたいです。

高校受験に向けて

二年　E

　中学校生活もすでに二年が過ぎ、高校受験も近づいてきました。中学校生活を通して、私は、小学校と違いテストも難かしく、勉強も忙しくなったと思いました。そして、今年は二年生になり、一年生よりも一層勉強が難しくなり、一年生より部活動や勉強も少しは集中して、できるようになりました。しかし、部活動はすごく頑張ることができましたが、勉強面では一年生より少ししか変わっていませんでした。
　それらのことから、次の三年生の目標はしっかり勉強して、テストでは全教科で六十点以上、そして成績では「3」を少なくして、「4」と「5」を多く増やしていき、部活動では、一つでも多く賞を取れるように頑張っていこうと思います。そして、まだ将来の事は決まっていませんが、勉強はやって損はないから、頑張って取り組んでいこうと思います。小学校の頃は勉強もあまり忙しくはなくほとんど自由でした。しかし、中学生になってからは、テストの方法も違っていて、テストがいきなり難しくなりました。
　だからテストの前には復習をしっかりしてテストの点数を上げたいです。

三年生になったら

二年　F

私は、新年の目標に、学校の定期テストで一つでも百点を取るという目標をかかげました。去年は、頑張ったおかげで英語で九十五点という高得点を取ることができたので、もうちょっと頑張って、英語の百点をめざしていきたいと思います。

中学校での二年間を終えて思ったことは、勉強の理解度が一年生と二年生を比べて格段に上がったことです。一年生の時は、学校で教えてもらっても理解があまりできなくて勉強がはかどらなかったのですが、二年生になってからは、ちょっと難しい問題が出されても、少し工夫をするなどして問題をある程度スラスラ解くことができるようになりました。理由は、塾に通で習い始めたことで、どうしても分からなかった所を先生に質問して、順調に理解をすることができるようになったからです。特に数学が伸びていて、学校の定期テストで五十点未満しかとれなかったのに、塾に通い始めたことで、問題の理解の仕方を改めることができて、九十点台を取ることができました。今度は、この勢いに乗っていけるような勉強を頑張り、数学でも百点を取れるようにしたいです。

学校の定期テストで百点を取れるようにするために、中学校生活では、授業態度を大切にしていきたいです。理由は、寝たり、発表しないなどして、大事な部分が分からなくなるかもしれないからです。

以上のことから、新年にかかげた目標をめざして頑張ります。

新年の決意

一年　G

私はこの一年を振り返ると、できなかったことよりもできるようになったことの方が多かったです。

できるようになったことの一つは、サッカー部に入って体力がついたことです。これが一番うれしかったことです。

できなかったことは、漢字の勉強です。今ではほんのちょっと読めるようになりました。これからももっと漢字が読めるように頑張りたいです。

一年間を振り返って、今までと大きく違うのが課題と授業態度です。小学校のころは、授業態度は今とは比べものにならないくらいに悪かったのですが、今は格段に良くなっています。

二年生になったら、遊びと勉強を半分半分で両立できるようになりたいです。

新年を迎えて考えること

一年　H

私が新年を迎えてどのようなことを考えたかというと、昨年は自分にとってどのような一年だったかということでした。

私は昨年四月に、中学校に入学をして新しい生活が始まりました。しかし、私が想像していたほど中学校生活は楽しいものではありませんでした。とても厳しい上下関係や部活動などで、忙しい日々が続きました。この生活もだんだん慣れてきた時、私の中学校では体育祭が行われました。その日私は、先輩たちが本気で頑張っている姿や中学校のイベントを盛り上げようとするところに感動し、私が想像していた中学校生活に一歩、近づいたと感じました。

この体育祭があった後からは、学校が少しずつ楽しくなってきました。文化祭や定期テストも全力で取り組んで結果を残すことができました。結果的に気持ちよく昨年は過ごせたと思います。

今年は、先輩として新入生を引っ張っていき、行事や勉強を全力で諦めずに努力していきたいと思います。

小学校の時と変わったこと

一年　I

僕は、小学生の時、他人と話すことが苦手でした。小学校を卒業して中学校に入学しましたが、最初は、あまり話したことのない人ばかりだったから心配していました。しかし、自分がしていたゲームを友達もやっていて、それがきっかけで話をするようになりました。今ではゲームだけでなく、色んなことを話して仲が良くなりました。

小学生のころは、学校以外で勉強することがありませんでした。しかし、今では、塾に通うようになり、毎日勉強するようになりました。小学生のころより勉強がわかるようになりました。

一度には、完全にできるようになりませんが、毎日続けて頑張っていきたいです。

中学校での一年間を終えて

一年　J

私は、中学校での一年間を通して多くのことを学びました。

中学校に入って始めの頃は分からないことや慣れないことが多かったのですが、二学期になる頃は中学校生活にも慣れ始め、部活動と勉強の両立が少しできるようになりました。

他にも先輩との関係が深まったり、班での集団下校ではなくなったりと、小学校の時とでは色々変わってわからないことや慣れないことがありましたが、無事一年間頑張ることができました。

二年生になったら、高校に向けてさらに勉強もしていきたいし、部活動に関しても県大会に行くことができるように実力を上げていきたいです。このまま塾にも通い続けオール「4」以上の成績も取りたいです。交友関係にしてもいじめなどがあったらすぐに止めにいったりして、友だち関係を深めていきたいです。

私は、一年生になってから塾に通い初めました。塾では、いつも同級生で仲のいい三人とふざけることもありますが、塾は楽しく自分でもできなかったことができるようになったりしました。

これからも友人を大切にしながら、塾はもちろん、学校や家での勉強も、部活動も頑張ろうと思います。

砦

「いないことにしないで」

守本秀樹

最近、「ヒオカ」さんの書いた手記を読んだ。彼女は中国地方の田舎の貧困家庭に生まれ、いじめや不登校を経験しながらも奨学金で高校、大学に進学した。自身の体験記を書いたことから話題をよび、物を書くという仕事に就き、現在もアルバイトを続けながら、「無いものにされる痛みに想像力を」をモットーに弱者の声を可視化するために取材、執筆活動を続けている。「ヒオカ」さんの父は定職に就くことも、人と関係を築くこともできなかったそうで苦しんでいる姿をみるたび、胸が痛かったという。そんな彼女の書いた「夏休みの格差について」という文章は、私に「いないことにしない」ことの重要性を改めて感じさせるものだった。その一部を紹介したい。

◆私にとっての「夏休みのイメージ」

「夏休み」と聞くと、どんなイメージが浮かぶだろう。紐づくワードは行楽、帰省、観光など、心躍るようなものが多い。しかし、少なくとも私にとっては、夏休みはいいものではなかった。学生時代、学校は決して好きとは言える場所ではなかった。でも、かといって家にも居場所はなかった。エアコンがなく、真夏はとても暑い。本をはじめ、ゲームなどの娯楽品はないに等しかった。一方、友達の家は広く、漫画や最新のゲームなど、あらゆるものが揃っていた。（中略）

さらに夏休みは給食もなくなる。貧困家庭の子どもたちにとって、給食は貴重な栄養源だ。家だとおかずは基本一品、おおくて二品。おやつもない。給食は唯一のご馳走だった。夏休みは給食が恋しかった。

夏休みなどの長期休暇は、各家庭に過ごし方がまかせられる分、普段からある格差が顕在化しやすく、広がりやすい。お金がある家庭の子達は夏期講習などに行き、空調の効いた部屋で勉強に勤しむ。旅行に行き、遠出をして、色んな思い出を作る。一方貧困家庭の子たちは学習環境もない家で過ごす。中には食事だって十分にとれないことだってある。（略）

「ヒオカ」さんは一九九五年生まれだから、この体験記は遠い昔の話ではない。今現在も誰かに起こりつつある現実の問題である。「いないものにしないで」という訴えを私たちは真摯に受け止め、「いる」と考えることのできる感性を磨き続けなければならない。

あすなろに勤務して七年になるが、これまで子どもの学習環境が十分でなかったり、家計の中で子どもの教育費が占める優先順位が低いケースなどを家庭訪問や懇談の中で把握し、子どもたちの学習の手助けをしてきた。この「ヒオカ」さんの手記は、見過ごされがちな格差を見逃すことなく、「経済格差を教育格差にしない」というあすなろの設立理念を再確認するとともに、その実現に今後も邁進する決意を新たにする良い機会となった。

私たち大人の責任として、見過ごされがちな格差や不合理に気づき、声をあげることから始めたいものである。

ご支援していただいている企業・団体

・ミヨシ電子株式会社（三次市東酒屋町）
・㈱三次衛生工業社（三次市四拾貫町）

ご支援にしていただいた皆様

・瀬川順子（三次市三良坂町）
・小根森直子（三次市十日市東）
・半田孝江（三次市三良坂町）
・笹田富子（福山市水呑町）
・匿名（三次市三良坂町）
・匿名（庄原市）
・匿名（三次市高杉町）

NPO法人あすなろ・賛助会員募集

賛助会員：ボランティア活動は出来ないが、寄付金等でご協力できる企業や個人
個人年会費：1口（5，000円）以上
企業等年会費：1口（10，000円）以上
特典：あすなろ通信送付（年3回発行）
問合せ：あすなろ通信の発行住所と同じ（TEL・FAXとも）